

## 六ヶ所再処理工場の完成延期と関電の使用済燃料対策の破綻

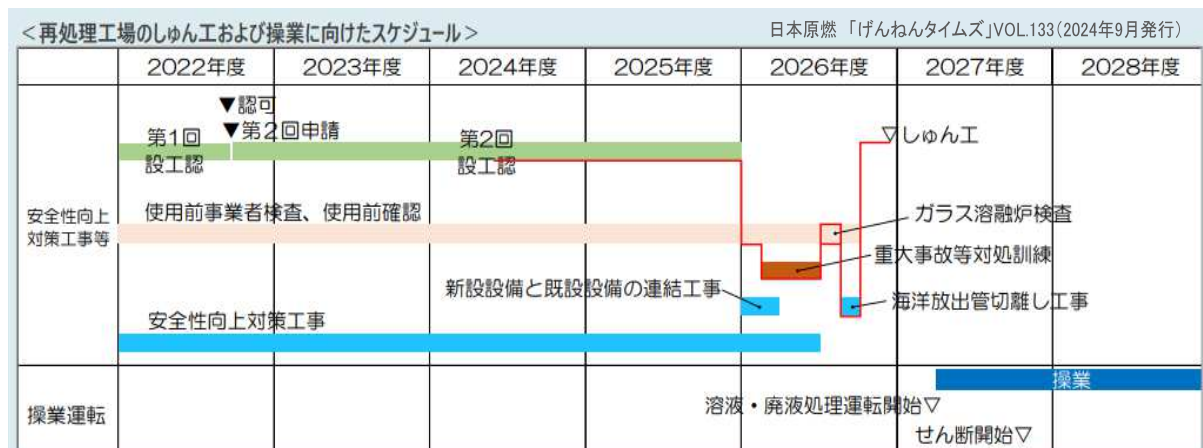
# 老朽原発の即時運転停止、乾式貯蔵計画の撤回を求めよう

## 戸別訪問・アンケートで住民の声を可視化し、反対の力としよう

### 1. 六ヶ所再処理工場の完成目標延期 2024年度上期から2026年度中(2027年3月)

日本原燃は8月29日に、六ヶ所再処理工場の完成目標の延期を正式に発表した。2024年度上期から2026年度中(2027年3月)へと、約2年半の延期となる。完成延期は27回目、建設開始から31年、約15兆円の費用をつぎ込んでも完成しない。新たな完成目標も実現できるという保証はない。

日本原燃が発表した新たなスケジュール(下図)では、①設工認(設計及び工事の計画の認可)の審査に約1年半(2026年3月まで)、②使用前事業者検査を2026年12月までに終了し、③「不確定要素を考慮して3カ月の余裕を持たせて2027年3月竣工(完成)」となっている。再処理工場の操業開始は、溶液・廃液処理運転開始が2027年6月頃、使用済燃料のせん断開始が2027年12月～2028年1月頃開始と下図から読み取れる。



### ★国相手の大飯原発裁判(大阪高裁) 第7回口頭弁論 地震動の過小評価について

2024年10月10日(木)14:00 大阪地裁202号法廷/ 終了後に報告会 弁護士会館920号  
先着順です。13:40頃には、手荷物検査を受けて、法廷に入ってください。

### 目次

- ▼老朽原発の即時停止と乾式貯蔵の撤回・・・p1
- ▼乾式貯蔵の新たな問題点・・・p4
- ▼戸別訪問の紹介・・・p6
- ▼(投稿)若狭からのたより・・・p8
- ▼滋賀県申入れ報告・・・p.9
- ▼大飯裁判 短周期レベル1.5倍ケースに「ばらつき」を考慮・・・p.10
- ▼(投稿)東海第二原発の防潮堤問題・・・p.12
- ▼(投稿)能登半島地震の爪痕 現地視察に参加して・・・p.14
- ▼(投稿)本人尋問の傍聴支援を！原発賠償関西訴訟・・・p.16

認可後の使用前事業者検査では、「ガラス溶融炉検査」がある。2006年から始めたアクティブ試験では、高レベル廃液とガラスを混ぜて固化するガラス固化の製造に何度も失敗し、検査に合格することはできなかった（当時は国の使用前検査）。アクティブ試験開始から約20年を経た今回の検査でも、当時の溶融炉に温度計を追加する等の改良を加えた初代の溶融炉を使用する（原燃に確認）。これまでの経験から、これが順調に進む保証はない。また、アクティブ試験で既に高濃度に汚染された約25,000もの機器や配管等の検査は、近づくことができないため、建設当時の記録等で劣化状況等を確認するという。基準地震動が引き上げられたにも関わらず、耐震補強工事もほとんど不可能な状況だ。このような危険な状況で再処理工場を稼働するなど許されない。

## 2. 六ヶ所再処理工場の延期により、関電の「使用済燃料対策ロードマップ」も破綻 老朽原発3基の即時停止、乾式貯蔵計画は撤回すべき

六ヶ所再処理工場の延期によって、関電の「使用済燃料対策ロードマップ」（工程表、下図）も破綻した。昨年10月に関電が示した工程表は、六ヶ所再処理工場の2024年度上期の完成を前提にして、2026年度に使用済燃料を再処理工場へ搬出する計画だった（六ヶ所再処理工場の操業開始は2027年度）。これが破綻したため関電は、今年度末（2025年3月）までに、新たな工程表を示すと表明した。



9月9日の福井県議会の全員協議会では、工程表が1年も経たない内に破綻したことに對し、県会自民党議員を筆頭に「裏切られた」等の批判が噴出した。関電は、2023年末まで

に中間貯蔵の候補地を決めることができなければ、老朽原発3基（高浜1・2号、美浜3号）の運転を停止すると約束していた。しかしその見込みがないために、代替として昨年10月に工程表を示していた。県議会では「約束は破られたため、老朽原発は即時停止すべき」との意見が相次いだ。同時に、「新潟と異なり福井県の振興策は具体化されていない」と不満が噴出した。

他方県知事は、「即時の停止は求めない」「関電の新たな工程表をまず確認する」との姿勢で、自らの約束が反故にされたにも関わらず、関電追随の姿勢を続けている。使用済燃料の乾式貯蔵計画も、関電の「工程表」が前提となっている<sup>※</sup>。知事は、乾式貯蔵建設の事前了解についても、新たな工程表を判断してからと述べるだけだ。

老朽原発の再稼働も乾式貯蔵計画も、知事が了解を出し、県議会は知事に判断を一任した。昨年、福井や関西の住民は反対を訴えたが、県民説明会を開くこともなかった。知事と県議会の責任が厳しく問われなければならない。福井と関西の市民団体は、議会初日の今年9月9日に、老朽原発の即時停止、乾式貯蔵計画の撤回を求める陳情を提出した。その後も福井県内各市町議会への働きかけが続いている。9月19日には滋賀県へ申入れを行った（9頁）。

※「使用済燃料の中間貯蔵施設へのより円滑な搬出・・・に備えて発電所構内に乾式貯蔵施設の設置を検討」（関電「工程表」より）

## 3. 核燃サイクルの破綻のもとで、原発の運転継続のための中間貯蔵施設、乾式貯蔵施設 使用済燃料は「有効な資源」ではなく、核のゴミ

東京電力は9月26日、国内初のむつ中間貯蔵施設に、柏崎刈羽原発から69体の使用済燃料を入れたキャスク1基の試験的搬入を強行した。7月の青森県内での住民説明会では、50年間保管

した後の搬出先はなく、むつが核のゴミ捨て場になると県内・全国から反対の声があがった。国は保管後は六ヶ所再処理工場に搬出すると無責任に述べ、青森県知事は「思いきり具体性が増した」として8月9日に中間貯蔵施設の安全協定を締結した。ところが、延期が明らかになると知事は「新たな目標を示しても直ちに信頼することはできない」と平気で述べ、安全協定を締結した自らの責任は不問にしている。住民を愚弄するにも程がある。むつ中間貯蔵への次の搬入予定は来年度だ。地元の運動と連携して止めていこう。

むつ中間貯蔵への搬入は、使用済燃料プールが満杯に近い柏崎刈羽原発の再稼働を優先し、福島原発事故を引き起こした東電に原発復帰の道を開くためのものだ。六ヶ所再処理工場の使用済燃料プールは約99%埋まっており、再処理できない限り新たに使用済燃料を運ぶことはできない。原発敷地外の中間貯蔵も、敷地内の乾式貯蔵も、原発の運転継続のためのものだ。そして搬出先はなく、それら貯蔵施設が核のゴミ捨て場となってしまう。核燃料サイクルが事実上破綻するなかで、使用済燃料は「有効な資源」ではなく、核のゴミという本来の姿をさらけ出している。

関電は、最初の乾式貯蔵施設として高浜第一期分を来年（2025年）に建設を開始し、2027年の運用開始を狙っている。その後、美浜、大飯、高浜第二期分も2030年の運用開始を計画。原発の使用済燃料プールが3～5年で一杯となり運転できなくなるからだ。

関電は、使用済燃料対策も破綻していながら、原発の運転を強行している。国内で最も古い高浜1号が9月24日に本格運転に入り、関電の原発7基すべてが稼働中だ。それも老朽原発ばかり。危険な老朽原発の稼働で核のゴミを増やし、核のゴミは地元で押し付ける傲慢極まりないやり方だ。

関電の原発7基すべてが運転中

原 発	最近の本格 運転開始日	次回定検	運転開始 からの年数
美浜3	2024. 2. 14	2025. 3 月上旬	47年(1976. 12)
大飯3	2024. 5. 2	2025. 6 月上旬	32年(1991. 12)
大飯4	2023. 11. 21	2024. 12 中旬	31年(1993. 2)
高浜1	2024. 9. 24	2025. 10 下旬	49年(1974. 11)
高浜2	2023. 10. 16	2024. 11 月上旬	48年(1975. 11)
高浜3	2024. 1. 23	2025. 2 下旬	39年(1985. 1)
高浜4	2024. 5. 21	2025. 5 下旬	39年(1985. 6)

「福井県原子力安全対策課 2024. 9. 2現在資料」等より

むつや上関の中間貯蔵、原発敷地内乾式貯蔵に反対し、原発の運転を止めていこう。

#### 4. 住民の声をアンケートで可視化し、その声に根ざして、乾式貯蔵の撤回を迫ろう

▶ 関電の乾式貯蔵施設は、敷地が狭いため「個別格納方式」をとっている。狭い敷地にぎゅうぎゅう詰めにするため様々な矛盾が生じている。当会は7月に規制委・規制庁に質問書を出し、避難計画を案ずる関西連絡会はカラーリーフ（同封）で問題点を紹介している。施設の背後が急峻な崖のため土砂災害で施設が埋もれて冷却が不能になる危険、積雪で自然冷却ができなくなる危険、異常が生じたキャスクの取り出しには約3か月もかかるという問題等々がある（4頁）。カラーリーフを使って問題点を広く知らせていこう。

▶ 乾式貯蔵を含め、原発の問題は住民置き去りのまま進められている。住民の安全を守るべき自治体は、国や電力会社の方を向いている場合が多い。そのため避難計画を案ずる関西連絡会では、福井の皆さんの協力も得て、住民の声を可視化するために、京都府北部の原発から30km圏内で戸別訪問を続けアンケートを集めている。自然災害と原発事故の同時発災で避難はできるか、乾式貯蔵のことを知っているか等々。猛暑の中で一軒一軒訪ね、住民の声を聴く。土砂災害の危険や川の氾濫の経験、核のゴミを子や孫に残したくない、住民に説明すべき等々（6頁）。

アンケート結果と住民の声を集約し可視化し、その声に根ざした運動を強めていこう。その力で自治体への申入れ、議員への働きかけ等を行い、乾式貯蔵計画を撤回させていこう。